

第72回県内信用金庫連携による合同景況調査結果

一般社団法人静岡県信用金庫協会（会長 田形 和幸）は、平成17年(2005年)10月以降、県内信用金庫連携による合同景況調査を実施しています。

各信用金庫が協力して取引先企業1,197社にアンケート調査を実施し、1,197社から得た回答（有効回答100.0%）をもとに、県内経済を支える地元企業を広く網羅して分析したものです。

静岡県信用金庫協会では、地域に密着した信用金庫ならではの情報提供を通じて地域に貢献し、信用金庫の存在意義を高めていきたいと考えております。

「県内中小企業等の景況感DI はやや改善」

【概況】

2024年7～9月の県内中小企業等の業況DI（企業の景況感を示す、「良い」とする企業割合から「悪い」とする企業割合を引いた数値）は、前回調査時（2024年4月～6月「以下同じ」）の▲18.4から▲14.3と4.1ポイントのやや改善となった。

業種別にみると、小売業（前回調査▲24.9→今回調査▲30.3）、卸売業（▲16.1→▲20.1）は悪化したものの、不動産業（15.7→12.1）はプラス水準を維持、サービス業（▲3.4→4.2）は改善しプラス化、製造業（▲30.4→▲20.1）、建設業（▲10.5→▲4.9）は改善した。

これを地区別の業況DIで見ると、東部地区、中部地区、西部地区ともそれぞれやや改善した（地区別の詳細は次頁のとおり）。なお、各地区とも、仕入価格や原材料価格の高騰が続いていることや、人手不足を経営課題として掲げている。

県内合計及び地区別DIの推移（全産業）

	2022年		2023年				2024年			
	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12 (見通し)
東部地区	▲19.6	▲14.1	▲18.9	▲17.6	▲16.0	▲11.4	▲21.1	▲19.3	▲16.0	▲12.2
中部地区	▲25.6	▲12.5	▲9.4	▲9.8	▲7.3	▲7.7	▲15.5	▲11.1	▲7.8	▲9.4
西部地区	▲19.1	▲10.9	▲18.7	▲11.8	▲9.0	▲5.3	▲16.6	▲19.8	▲15.1	▲12.3
県内計	▲20.3	▲12.1	▲17.3	▲13.2	▲10.9	▲7.5	▲17.8	▲18.4	▲14.3	▲11.8

2024年10～12月の業況見通しは、東部、西部はやや改善、中部はやや悪化となっていることから、県全体ではやや改善となっている。

■東部

東部では、卸売業が▲18.4ポイント(▲18.4⇒▲36.8)と悪化したものの、不動産業が(14.7⇒17.6)プラス水準を維持、建設業が12.1ポイント(▲15.5⇒▲3.4)、サービス業が8.0ポイント(▲10.0⇒▲2.0)、製造業が5.9ポイント(▲24.0⇒▲18.1)と改善し、小売業が1.2ポイント(▲35.7⇒▲34.5)とほぼ横ばいであることから、全産業ベースの業況DIは、前回調査時の▲19.3から▲16.0へと3.3ポイントの改善となった。

製造業

業況は、原材料の高騰が依然として続いているものの、徐々に販売価格への転嫁が進んでいることから、改善している。

今後の見通し(2024年10~12月期・以下同じ)としては、原材料の高騰、人手不足、人件費の増加など不安材料はあるものの、業況は改善を見込んでいる。

(事業者の声)

- ・半導体関連の受注が安定。部品価格は高騰しているため、引き続き価格転嫁が必要となる。
(自動はんだ付けロボット製造業)
- ・自動車メーカーの生産再稼働などによりストップしていた発注と後発の発注が重なり、自社のキャパを超える受注を受けている。
(自動車部品製造業)
- ・紙加工の売上が徐々に回復し、化粧品容器の受注が増加。医療部門については今後本稼働となり、さらなる売上確保に努めている。
(紙加工業)
- ・天候不順で例年より原材料の数量が少ないが、一定の売上は確保できている。
(わさび漬)

卸売業

業況は、仕入価格の上昇などによる収益の減少から、悪化している。

今後の見通しとしては、販売価格の上昇が想定されることから、業況は改善を見込んでいる。

(事業者の声)

- ・海産物の卸しについては、原材料が高止まりしている状態。利益圧迫の状態は今後も業界全体として続く見通しである。
(海産物卸売)
- ・仕入価格の高騰が続いているが、すべてを価格転嫁するのは難しく、中小では大手メーカーのような利益確保の優位性は無い。
(食品卸売業)
- ・仕入価格の上昇が目まぐるしく、販売価格への転嫁だけでは追いつかない状況。
(防災機器等販売業)
- ・葬儀関連の生花需要は回復傾向にあり、売上も安定している。
(生花・観葉植物)

小売業

業況は、仕入価格の上昇に伴い、販売価格への転嫁は徐々に進んでいるものの、大型店との競争激化などを背景に、収益面への影響は大きく、ほぼ横ばいとなった。

今後の見通しとしては、引き続き仕入先からの値上げ要請、売上の停滞や利幅の縮小など不安材料はあるものの、業況は改善を見込んでいる。

(事業者の声)

- ・同業他社との競合もあるが、ある程度は原油高を販売価格に転嫁できている。今後は車検や洗車・コーティングなどの各種サービスに注力し、収益力向上を図りたい。
(ガソリンスタンド)
- ・米不足で売上が多少伸びているものの、他は例年並みで推移している。
(米)
- ・仕入価格高騰に伴い、販売価格の上昇を行うも、すべてを価格転嫁できない状況。値上げが続くと常連客が離れてしまわないかといった懸念もある。
(和洋菓子販売)
- ・昨年に比べて売上、収益ともに減少している。仕入価格の値上げ、人件費の高騰により、収益を圧迫。今後、過剰気味の在庫を収益につなげることができるかが課題。
(家具販売)

サービス業

業況は、コロナ禍の影響は緩和されインバウンド等により、売上、収益ともに回復したことから、改善している。

今後の見通しとしては、原材料価格の上昇や夏季の繁忙期を過ぎたこと、依然として人手不足が解消されないことなどから、業況は悪化を見込んでいる。

(事業者の声)

- ・宿泊客が多い8月から10月の繁忙期の売上が利益に直結している。今後は、施設の老朽化や人材不足が課題となる。(宿泊業)
- ・日本人の動きは鈍く、インバウンドにより売上がカバーされている状況。(旅館・飲食)
- ・新機種の入替えに加え、両替機の新紙幣対応などにより経費が増加し、資金繰りは厳しい。(パチンコ)
- ・従業員が高齢化しているとともに従業員数が不足しており、若手を確保したい。(自動車整備)

建設業

業況は、材料価格の高騰は影響しているものの、受注、売上は安定していることから、改善している。

今後の見通しは、引き続き安定した受注確保が見込まれるものの、材料価格の上昇、利幅の減少、人手不足などから、業況はほぼ横ばいを見込んでいる。

(事業者の声)

- ・受注状況については安定して推移しているが、人手の確保については苦慮している。(建設)
- ・民間・公共工事ともに増加しているが、材料費や人件費の高騰に加え、人手不足が業界全体の課題となっている。(電気設備事業)
- ・鉄筋工事を取り扱う業者は数多くあるが、中小零細企業の割合が大きいため、価格競争に巻き込まれやすく、利益率の低い事業者が増えてしまう傾向にある。(鉄筋工事業)
- ・原材料価格が上昇している一方、コンパクトな平屋住宅の需要が増加しており、顧客単価が低下している。(一般住宅建築業)

不動産業

業況は、販売物件の高騰や物件の不足はあるものの、不動産の動きが堅調であることから、やや改善しプラス水準を維持している。

今後の見通しとしては、引き続き物件不足や価格高騰の影響があるものの、引き続きプラス水準を見込んでいる。

(事業者の声)

- ・能登半島の地震や南海トラフ地震臨時情報の発出などの影響により、防災対策の強い地域の需要が高まっている。(不動産売買・仲介業)
- ・物価高騰により住宅価格も上がっているため、住宅ローン審査の通る人が減少しており、売上の低下につながっている。(土地売買)
- ・人材の積極的な採用を行っているが、同時に退職者も出ており、従業員数に変動なし。業界全体で人材確保が課題。(不動産売買・仲介業)
- ・売上・収益ともに減少傾向にあるが、資材等の仕入価格の上昇を販売価格に転嫁できないことが要因。今後、販売価格の見直しを検討し、収益改善に努めたい。(建売業・土地売買業)

■中部地区

中部では、建設業が▲14.8ポイント(▲7.4⇒▲22.2)、小売業が▲8.9ポイント(▲20.7⇒▲29.6)と悪化したものの、不動産業(22.7⇒22.7)、サービス業(13.0⇒17.4)はプラス水準を維持、卸売業が18.5ポイント(▲18.5⇒0.0)、製造業が11.8ポイント(▲28.8⇒▲17.0)と改善したことから、全産業ベースの業況D Iは、前回調査時の▲11.1から▲7.8へと3.3ポイントの改善となった。

製造業

業況は、原材料価格の高騰に比べ価格転嫁はやや鈍いものの、積極的な設備投資の動きがあることなどから、改善している。

今後の見通しとしては、価格転嫁が進むも、原材料価格の高騰に追いつかず、業況は横ばいを見込んでいる。

(事業者の声)

- ・猛暑が続いたことで飲料需要が旺盛となり、夏場の売上は好調に推移。(清涼飲料製造)

- ・原材料価格の高騰等の影響はあるものの、価格転嫁は進んでいる。 (プラスチック製品製造)
- ・売上は増加しているものの、今後の売上増加の為の販路拡大と人材不足解消が目下の課題である。令和6年8月より技能実習生2名を新たに受け入れた。 (工作機械製造)
- ・イベントなど催し物が県内外で増加しており売上、受注等が増加。反面、原材料価格の上昇があり、今後販売価格の見直しの必要性に迫られる。 (プラスチックモデル製造)
- ・東南アジアを中心に販路の拡大が進んでいる。 (魚肉練り製品製造)

卸売業

業況は、原材料価格が高騰しているものの、価格転嫁が進んでいることから、改善している。

今後の見通しとしては、価格転嫁が順調に進んでいるところと、転嫁しきれていないところで二極化が進み、業況はやや悪化を見込んでいる。

(事業者の声)

- ・業況は堅調に推移している。設備投資の実施による業務の効率化を標榜している。 (鋼材卸)
- ・原料を安く仕入れられる状況にあり、今後仕入を増やして行く予定。 (鯖卸売)
- ・日本製商品は外国からの需要が高く、輸出業者も取引先拡大を図っている。今後は事業拡大に伴い、従業員新規雇用も視野に入れている。 (家電卸)
- ・販売は若干減少しているものの、業者向けの特製品が多く、価格転嫁は比較的容易である。 (木製品販売卸)
- ・住宅着工件数に影響を受ける納入先であるメーカーに売上が左右されている。現在はリフォームの需要が多い状況。 (建築資材卸)

小売業

業況は、販売価格への価格転嫁が進んでいるものの、仕入価格の上昇による収益の減少から、悪化している。

今後の見通しとしては仕入価格の上昇が一服することから、業況は改善を見込んでいる。

(事業者の声)

- ・車両販売は前年と比べ15%程度減少している。今後は個人リースを含め幅広い年代に販路を広げていく方針。 (自動車小売)
- ・少子化に伴い、メイン先である近隣の小・中学校への納入が減少していることが売上の減少に大きく影響している。目下、新たな取引先を求めて、積極的に営業活動を実施中である。 (牛乳・乳製品)
- ・物価高騰により、仕入価格は上がっているものの、価格転嫁が進んでいない。又、慢性的な人材不足に悩んでいる。 (木材・建材)
- ・人材不足が続いており特に自動車検査員・自動車整備士等有資格者の確保に苦戦している。 (カー用品小売)
- ・猛暑の影響で生花の保管コストが上昇している。 (生花小売)

サービス業

業況は、コロナ禍以前の環境に戻りつつあり、また、料金価格の引き上げによる売上の増加から、改善しプラス水準を維持している。

今後の見通しとしては、材料価格の上昇などから業況はやや悪化するものの、引き続きプラス水準を見込んでいる。

(事業者の声)

- ・台風等により電車が運休すると来店客が減少するため、売上に影響する。 (美容室)
- ・地域に根差した企業であり、売上、業況等に懸念は無く、今後も同等以上の収益確保が見込める。 (会計処理・コンサルタント)
- ・現状、業況に対して懸念や問題などは見当たらず、当面の資金繰りも懸念は無い。今後の事業承継を見据えて後継予定者を育成中である。 (一般貨物運送)
- ・8月の台風の影響で、顧客対応にかなり繁忙を極めたが売上は例年並みに落ち着いている。 (旅館業)

建設業

業況は、人手不足や材料価格の高騰が続いていることから、悪化している。

今後の見通しとしては、更なる材料価格の上昇が続きました、人手不足が改善されないことから、業況はやや悪化を見込んでいる。

(事業者の声)

- ・慢性的な人材不足が続いており、外注依存度が高くなっている。(給排水工事業)
- ・大工を目指す人がいなくなり、業界の人材不足は深刻な問題となっている。(建築業)
- ・材料価格が上がっているのに対し施工高が変わらない為、資金繰りが厳しい。(総合工事)
- ・同業者間の価格競争が激しい。(住宅リフォーム)
- ・公共事業の動きは鈍く今年度の着地は不透明。賃金引上げによる経費増加、人手不足など経営環境は厳しさを増している。(総合建設)

不動産業

業況は、販売価格が上昇傾向にあることなどから、横ばいのプラス水準を維持している。

今後の見通しとしては、仕入価格の上昇はあるものの、販売価格への転嫁が進み、業況は横ばいのプラス水準を見込んでいる。

(事業者の声)

- ・近時、相続や高齢者の資産整理等の相談が増加傾向にある。(不動産仲介)
- ・前期の時点で売上予定だった土地が売れたため、売上面でプラスに働いた。(不動産・保険代理業)
- ・売上・利益共に増加傾向にあり業況は好調に推移している。(不動産代理・仲介業)
- ・従業員教育に力を入れていきたい。(不動産仲介)

■西部地区

西部では、小売業が▲12.2ポイント(▲13.2⇒▲25.4)、卸売業が▲5.1ポイント(▲14.1⇒▲19.2)と悪化したものの、サービス業が8.9ポイント(▲4.5⇒4.4)と改善しプラス化、不動産業(13.5⇒3.9)はプラス水準を維持、製造業が11.4ポイント(▲32.6⇒▲21.2)、建設業が7.8ポイント(▲7.8⇒0.0)と改善したことから、全産業ベースの業況DIは前回調査時の▲19.8から▲15.1へと4.7ポイントの改善となった。

製造業

業況は、大手メーカーからの受注回復や価格転嫁による収益の増加などから、改善している。

今後の見通しとしては、価格転嫁の実施や売上および受注の回復から、業況はやや改善を見込んでいる。

(事業者の声)

- ・主要取引先の手続きメーカーからの受注は回復している。(二輪車部品)
- ・価格転嫁の実施により収益面でも回復が見込まれる。(自動車部品)
- ・大口取引先への値上げ交渉に成功し、収益の増加に貢献している。(楽器)
- ・例年9月以降は生産繁忙期を迎えるため、売上は増加する見通しである。(繊維)
- ・仕入価格の高騰は依然として収益を圧迫しているが、人材不足の課題については海外の現地法人から研修生を受け入れる取組みを始めた。(金型製造)
- ・人件費等の高騰に伴う営業利益の縮小に課題を持っているが、販路拡大と共に粘り強く価格転嫁の交渉を行っている。(建築用板金)
- ・茶葉の価格は低下しているが、飲料メーカー向けのドリンクに使用される売上は伸びている。(茶製造)

卸売業

業況は、仕入価格の高止まりで価格転嫁による小幅な売上の増加はみられるものの、収益の減少などから、悪化している。

今後の見通しとしては、価格転嫁を更に進めることによる収益の増加から、業況は改善を見込んでいる。

(事業者の声)

- ・天候不順の影響で減収・減益となった。(土産品)
- ・為替や気候変動の影響で、仕入れや収穫量が減り売上減少となっている。(青果・水産物卸売)
- ・原材料費高騰の影響を受けて、仕入れ価格が上昇している。(珍味・豆菓子卸売)
- ・大手販売店の業容拡大により、売上の減少に直面している。(寝具)
- ・主要取引先からの受注は安定しており、繁忙な状態が続く見通しである。(梱包資材)

小売業

業況は、物価上昇に加えて大型店との顧客獲得競争が激化し、収益が圧迫されていることから、悪化している。今後の見通しとしては、物価上昇による価格転嫁が概ね消費者の理解を得られるようになりつつあり、年末商戦に向けて売上の増加を期待しており、業況は改善を見込んでいる。

(事業者の声)

- ・仕入先からの値上げに加え、大型店との顧客獲得競争が激化し、収益が圧迫されている。(食品小売業)
- ・人口減少と若者の車への関心が薄れている状況から、今後の営業方針について経営陣を筆頭に協議を行っている。(自動車整備・販売)
- ・売上について大きな変動は無いが、今後は収益を上げるための活動を行っていきたい。(LP ガス・ガス機器販売)
- ・猛暑もあり空調関係の販売が好調である。(家電)
- ・仕入価格の高騰分は価格に転嫁できており、収益は確保している。(菓子)

サービス業

業況は、夏のレジャーとインバウンド効果で売上が増加し、2 四半期ぶりにプラス水準に回復し、改善となった。今後の見通しとしては、年末商戦に向けて売上の増加と収益の向上を見込んでいることから、業況は改善を見込んでいる。

(事業者の声)

- ・イベント等による集客を行い、好天にも恵まれ、売上げは増加した。(レジャー)
- ・売上高は、前年同月対比で 112%と回復している。(飲食)
- ・売上はやや増加したものの諸経費も増加しており、純利益は昨年と比較して微増にとどまっている。(理容業)
- ・今後は運賃収入が増加する事で売上の増加が見込まれる一方で、人手不足が課題となっている。(霊柩運送・警備業)
- ・個人客に関しては、ビジネス・観光ともに伸び悩んでいる。(宿泊)

建設業

業況は、人手不足は深刻さが増しているものの、受注は概ね順調に推移し、資材高騰分の価格転嫁が進み、収益確保もできるようになってきていることから、改善している。

今後の見通しとしては、冬場に向けて忙しくなってくるが人材の確保次第では受注に影響を及ぼすことが考えられるため、業況は横ばいを見込んでいる。

(事業者の声)

- ・仕事の合理化と部署間のコミュニケーションの改善に取り組んだ結果、収益力が向上した。(総合建設業)
- ・住宅資材の高騰は続いているが価格転嫁はできており、収益は確保できている。(建設業)
- ・受注は順調であるが、人手不足が課題となっている。(土木・建築一式)
- ・下請け企業の廃業が続いているため、新しい外注先を見つけるのが困難になっている。(総合建設業)

不動産業

業況は、事業用物件の引き合いは多いものの優良物件が少なく、成約に至らないケースがあるものの、プラス水準は維持している。

今後の見通しとしては、良質な商品土地や物件が更に不足していくことが予想されるものの、業況はやや改善を見込んでいる。

(事業者の声)

- ・中古不動産は品薄で人気もあることから価格が高騰している。 (不動産仲介業)
- ・前期と比較して売上は上回っているものの、商品土地が不足しており価格上昇を招いている。 (不動産仲介業)
- ・賃貸物件の入居率は安定的に推移しているが、今後の金利上昇を懸念している。 (不動産賃貸業)
- ・現状は販売良好であるが、以降に販売する商品土地が殆ど無くなってしまい、売上の減少が懸念される。
(不動産賃貸・販売業)

【お問い合わせ先】

(一社) 静岡県信用金庫協会

電話 : 054-255-5530

1. 業況(全業種)

	今回調査(2024年7~9月期)						前回調査(2024年4~6月期)					
	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	DI	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	DI
東部地区	2.4%	14.6%	49.9%	25.5%	7.6%	▲ 16.0	3.0%	14.4%	45.9%	28.5%	8.2%	▲ 19.3
中部地区	2.2%	18.9%	50.0%	24.4%	4.4%	▲ 7.8	3.3%	13.3%	55.6%	22.2%	5.6%	▲ 11.1
西部地区	1.6%	16.5%	48.8%	25.2%	7.9%	▲ 15.1	1.7%	14.2%	48.5%	27.2%	8.5%	▲ 19.8
県内合計	1.9%	16.3%	49.3%	25.2%	7.3%	▲ 14.3	2.3%	14.1%	48.7%	26.9%	7.9%	▲ 18.4

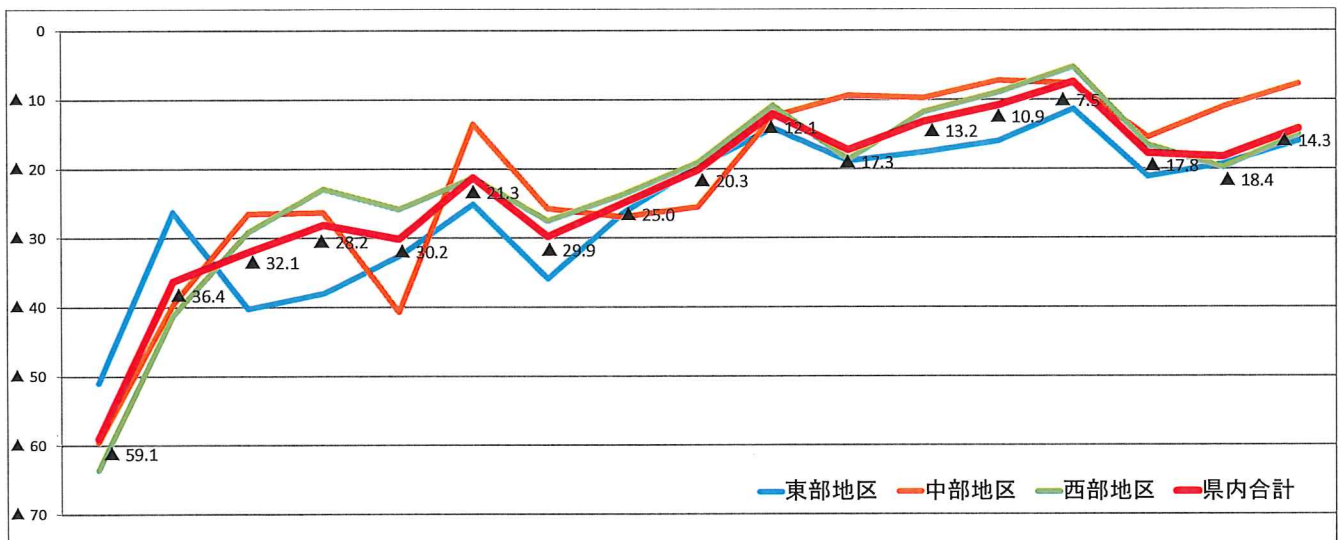
2. 業況予想(全業種)

	2024年10月~12月の業況予想					
	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	DI
東部地区	1.4%	16.5%	52.0%	25.2%	4.9%	▲ 12.2
中部地区	2.8%	14.9%	55.2%	23.8%	3.3%	▲ 9.4
西部地区	0.8%	17.1%	51.9%	25.0%	5.1%	▲ 12.3
県内合計	1.3%	16.6%	52.5%	24.9%	4.8%	▲ 11.8

3. 業況(DI)の推移(全業種)

	2020年	2020年	2021年	2021年	2021年	2021年	2022年	2022年	2022年	2022年	2023年	2023年	2023年	2023年	2024年	2024年	2024年
	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期
東部地区	▲ 50.9	▲ 26.2	▲ 40.2	▲ 38.0	▲ 32.7	▲ 25.1	▲ 35.9	▲ 26.4	▲ 19.6	▲ 14.1	▲ 18.9	▲ 17.6	▲ 16.0	▲ 11.4	▲ 21.1	▲ 19.3	▲ 16.0
中部地区	▲ 59.6	▲ 39.7	▲ 26.6	▲ 26.4	▲ 40.8	▲ 13.6	▲ 25.8	▲ 27.0	▲ 25.6	▲ 12.5	▲ 9.4	▲ 9.8	▲ 7.3	▲ 7.7	▲ 15.5	▲ 11.1	▲ 7.8
西部地区	▲ 63.6	▲ 41.3	▲ 29.1	▲ 23.0	▲ 25.9	▲ 21.3	▲ 27.5	▲ 23.7	▲ 19.1	▲ 10.9	▲ 18.7	▲ 11.8	▲ 9.0	▲ 5.3	▲ 16.6	▲ 19.8	▲ 15.1
県内合計	▲ 59.1	▲ 36.4	▲ 32.1	▲ 28.2	▲ 30.2	▲ 21.3	▲ 29.9	▲ 25.0	▲ 20.3	▲ 12.1	▲ 17.3	▲ 13.2	▲ 10.9	▲ 7.5	▲ 17.8	▲ 18.4	▲ 14.3

県内合計及び地区別DIの推移(全産業)



資料 2

・業種別業況

1. 東部地区

	今回調査(2024年7~9月期)						前回調査(2024年4~6月期)					
	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	DI	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	DI
製造業	2.9%	15.2%	45.7%	28.6%	7.6%	▲ 18.1	2.9%	13.5%	43.3%	30.8%	9.6%	▲ 24.0
卸売業	0.0%	10.5%	42.1%	34.2%	13.2%	▲ 36.8	0.0%	21.1%	39.5%	26.3%	13.2%	▲ 18.4
小売業	2.4%	11.9%	36.9%	34.5%	14.3%	▲ 34.5	2.4%	8.3%	42.9%	34.5%	11.9%	▲ 35.7
サービス業	2.0%	16.0%	62.0%	18.0%	2.0%	▲ 2.0	4.0%	14.0%	54.0%	24.0%	4.0%	▲ 10.0
建設業	0.0%	15.5%	65.5%	17.2%	1.7%	▲ 3.4	1.7%	15.5%	50.0%	27.6%	5.2%	▲ 15.5
不動産業	8.8%	20.6%	58.8%	8.8%	2.9%	17.6	8.8%	23.5%	50.0%	17.6%	0.0%	14.7
全業種	2.4%	14.6%	49.9%	25.5%	7.6%	▲ 16.0	3.0%	14.4%	45.9%	28.5%	8.2%	▲ 19.3

2. 中部地区

	今回調査(2024年7~9月期)						前回調査(2024年4~6月期)					
	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	DI	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	DI
製造業	0.0%	20.8%	41.5%	32.1%	5.7%	▲ 17.0	0.0%	13.5%	44.2%	32.7%	9.6%	▲ 28.8
卸売業	7.1%	17.9%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0	0.0%	11.1%	59.3%	25.9%	3.7%	▲ 18.5
小売業	0.0%	11.1%	48.1%	29.6%	11.1%	▲ 29.6	0.0%	10.3%	58.6%	31.0%	0.0%	▲ 20.7
サービス業	4.3%	21.7%	65.2%	8.7%	0.0%	17.4	13.0%	8.7%	69.6%	8.7%	0.0%	13.0
建設業	3.7%	11.1%	48.1%	33.3%	3.7%	▲ 22.2	0.0%	18.5%	55.6%	14.8%	11.1%	▲ 7.4
不動産業	0.0%	31.8%	59.1%	4.5%	4.5%	22.7	13.6%	18.2%	59.1%	4.5%	4.5%	22.7
全業種	2.2%	18.9%	50.0%	24.4%	4.4%	▲ 7.8	3.3%	13.3%	55.6%	22.2%	5.6%	▲ 11.1

3. 西部地区

	今回調査(2024年7~9月期)						前回調査(2024年4~6月期)					
	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	DI	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	DI
製造業	1.2%	15.4%	45.5%	26.5%	11.4%	▲ 21.2	1.8%	11.2%	41.4%	32.3%	13.3%	▲ 32.6
卸売業	0.0%	16.7%	47.4%	29.5%	6.4%	▲ 19.2	0.0%	17.9%	50.0%	28.2%	3.8%	▲ 14.1
小売業	3.0%	9.0%	50.7%	28.4%	9.0%	▲ 25.4	1.5%	19.1%	45.6%	30.9%	2.9%	▲ 13.2
サービス業	2.2%	22.2%	55.6%	17.8%	2.2%	4.4	0.0%	15.9%	63.6%	15.9%	4.5%	▲ 4.5
建設業	2.6%	23.4%	48.1%	23.4%	2.6%	0.0	2.6%	16.9%	53.2%	22.1%	5.2%	▲ 7.8
不動産業	2.0%	17.6%	64.7%	15.7%	0.0%	3.9	3.8%	15.4%	75.0%	5.8%	0.0%	13.5
全業種	1.6%	16.5%	48.8%	25.2%	7.9%	▲ 15.1	1.7%	14.2%	48.5%	27.2%	8.5%	▲ 19.8

4. 県内合計

	今回調査(2024年7~9月期)						前回調査(2024年4~6月期)					
	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	DI	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	DI
製造業	1.4%	15.9%	45.1%	27.5%	9.9%	▲ 20.1	1.8%	11.9%	42.1%	32.0%	12.1%	▲ 30.4
卸売業	1.4%	15.3%	46.5%	29.9%	6.9%	▲ 20.1	0.0%	17.5%	49.0%	27.3%	6.3%	▲ 16.1
小売業	2.2%	10.7%	43.8%	31.5%	11.8%	▲ 30.3	1.7%	12.7%	46.4%	32.6%	6.6%	▲ 24.9
サービス業	2.5%	19.5%	60.2%	16.1%	1.7%	4.2	4.3%	13.7%	60.7%	17.9%	3.4%	▲ 3.4
建設業	1.9%	18.5%	54.3%	22.8%	2.5%	▲ 4.9	1.9%	16.7%	52.5%	22.8%	6.2%	▲ 10.5
不動産業	3.7%	21.5%	61.7%	11.2%	1.9%	12.1	7.4%	18.5%	63.9%	9.3%	0.9%	15.7
全業種	1.9%	16.3%	49.3%	25.2%	7.3%	▲ 14.3	2.3%	14.1%	48.7%	26.9%	7.9%	▲ 18.4

資料 3
・業種別予想

1. 東部地区

	2024年10月～12月の業況予想					
	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	DI
製造業	2.9%	22.9%	40.0%	30.5%	3.8%	▲ 8.6
卸売業	0.0%	15.8%	44.7%	26.3%	13.2%	▲ 23.7
小売業	0.0%	9.5%	53.6%	27.4%	9.5%	▲ 27.4
サービス業	0.0%	18.0%	54.0%	26.0%	2.0%	▲ 10.0
建設業	0.0%	12.1%	70.7%	17.2%	0.0%	▲ 5.2
不動産業	5.9%	20.6%	58.8%	14.7%	0.0%	11.8
全業種	1.4%	16.5%	52.0%	25.2%	4.9%	▲ 12.2

2. 中部地区

	2024年10月～12月の業況予想					
	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	DI
製造業	1.9%	13.2%	52.8%	26.4%	5.7%	▲ 17.0
卸売業	7.1%	17.9%	46.4%	28.6%	0.0%	▲ 3.6
小売業	0.0%	10.7%	53.6%	28.6%	7.1%	▲ 25.0
サービス業	0.0%	17.4%	73.9%	8.7%	0.0%	8.7
建設業	7.4%	7.4%	44.4%	37.0%	3.7%	▲ 25.9
不動産業	0.0%	27.3%	68.2%	4.5%	0.0%	22.7
全業種	2.8%	14.9%	55.2%	23.8%	3.3%	▲ 9.4

3. 西部地区

	2024年10月～12月の業況予想					
	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	DI
製造業	0.6%	15.7%	48.3%	28.6%	6.8%	▲ 19.1
卸売業	0.0%	19.2%	47.4%	30.8%	2.6%	▲ 14.1
小売業	1.5%	7.5%	61.2%	22.4%	7.5%	▲ 20.9
サービス業	2.2%	26.7%	53.3%	15.6%	2.2%	11.1
建設業	1.3%	23.4%	50.6%	20.8%	3.9%	0.0
不動産業	0.0%	17.6%	70.6%	11.8%	0.0%	5.9
全業種	0.8%	17.1%	51.9%	25.0%	5.1%	▲ 12.3

4. 県内合計

	2024年10月～12月の業況予想					
	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	DI
製造業	1.2%	17.0%	47.0%	28.8%	6.0%	▲ 16.6
卸売業	1.4%	18.1%	46.5%	29.2%	4.9%	▲ 14.6
小売業	0.6%	8.9%	56.4%	25.7%	8.4%	▲ 24.6
サービス業	0.8%	21.2%	57.6%	18.6%	1.7%	1.7
建設業	1.9%	16.7%	56.8%	22.2%	2.5%	▲ 6.2
不動産業	1.9%	20.6%	66.4%	11.2%	0.0%	11.2
全業種	1.3%	16.6%	52.5%	24.9%	4.8%	▲ 11.8